

## 中野恒明委員意見一覧

- 1 これまで携わった門司港の再整備の際も、船だまり周辺の回遊性を生み出すことで、シンボリックな空間が創出され、その結果賑わいが生まれた。中央ふ頭だけでなく、ベイサイドプレイスも含めて回遊性を生む工夫が必要である。
- 2 世界的な潮流としては、まちなかの旧来からの港では、物流の高度化・大型化などにより必然的に物流機能が別の場所に移り、空いた敷地に住宅やコンベンション施設が段階的に立地している。このように、賑わいをもたせるためには、コンベンション機能だけでなく、定住や地元住民が足を運ぶようなまちづくりが必要である。
- 3 ウォーターフロント地区を開発する場合、緑地や水面を生かしたオープンスペースの整備であったり、ゲートウェイである門司港駅から海が見えるようにしたように、人目をひくようなシンボリックな空間が必要であったりする。その意味ではサンパレスがある場所は重要な意味を持つと言える。
- 4 再整備を進める上で重要なのは、ディズニーランドや門司港に代表されるように、一気に整備を完了させるのではなく、順次新しいものを加えていくような連鎖型の整備である。そのことによって市民や訪れる人々からも新たな期待を寄せていただくことにもつながる。
- 5 ウォーターフロント地区に臨む都市高速道路が景観上プラスなのかマイナスなのかは考えた方がいい。世界を見渡すと、ボルチモアやボストン、シアトルなどでも計画の見直しや道路の地中化を進めているところもある。一方で、都市高速道路をあえて景観的にうまく取り込んで活用するという手もあり、プラスの面とマイナスの面のいずれも考えられる。